

**高知県労連**  
 No. 128  
 発行：高知県労連書記局  
 住所：高知市丸ノ内2-1-10  
 〒780-0850 高知城ホール3階  
 [TEL]088-872-3406  
 [FAX]088-822-7969  
 ホームページもご覧下さい。

# 東日本大震災 支援の輪ひろげ

## ～各組織で支援や募金の呼びかけ～

### 職場に広がる支援の輪

三月十一日に起きた東日本大震災を受け、全労連はいち早く対策本部を設け、支援体制を取りました。県労連は加盟組合に募金を呼びかけると共に、三月十八日に帯屋町で募金活動を行いました。

○自治労連は四国ブロックで、粉ミルクや紙おむつ、タオルなど支援物資を送りました。また、各加盟単組で募金活動を行っています。

○こうち生協労組は理事会と共同し、人的支援を行っています。四月三十日までに合計十八名を福島県へ派遣します。また、四月二日には労組



県労連支援募金



コープよしだ店前

としてコープよしだ店前で来店者に募金を訴えました。

○県教組は「教育通信」で全教職員へ募金を呼びかけ、募金は主に学校の復興などのために活用する予定です。

○高教組は復興支援と共に自分たちの住む地域の防災や備えなどの見直しをピラも作り呼びかけています。

○県医労連は加盟組合に募金を訴え、病院と一緒に人的支援に取り組んでいる単組もあります。

○この他にも建交労、ミロク製作所労組、宇治電化学労組など多くの職場で、立場の違いを超え大きな支援の輪が広がっています。

### 懸念される雇用不安

県内の製造業でも自動車関連や被災地に顧客を持つ企業などで影響が出ています。

県は今のところ内定取り消しなどの情報はつかんでいないということですが、今後雇用調整助成金の申請は増えるものと思われる。今後注視が必要だ。

### 防災対策の強化を

全労連は既に政府に支援、復興対策の強化や原発政策の見直しなどの要望をしています。県労連として四国電力への申入れを四国規模で計画しています。学習会の開催や自治体と共同した防災対策の見直しも必要になっています。

**第八十二回  
高知県中央メーデー**

日時 五月一日(日)  
一〇時より

場所 中央公園

### 針路

今回の震災は、いのちの重みと重ね合わせる言葉の重みを教えてくれる▲安全と安心の違い。本来、政府発表で安全と言え、国民は安心するはずである▲「ただちに健康に影響を与えるものではない」という常套句。一時間当りの数値を「年間の基準値」と比較する「比較基準のすり替え」。事態の長期化は避けられず、「掛け算が出来ない」と揶揄されるのも当然。国民の不信感が募る▲「震災大連立」。「国の総力をあげて震災対策に当たる」ことに異論はない。しかし、大連立とは別次元の話。すべてを通すことが「総力を挙げる」ことにはならない▲救援、復興、情報提供のあり方などの深い議論と同時に、介護保険や国保法の改正案の徹底した議論も重要。十一年度予算にある米軍への思いやり予算や法人税率の引き下げは、復興のための補正予算では見直しが避けられまい▲原発の「安全神話」は、まさに神話であった。「想定外」は、国民の命より企業利益や予算を優先したために生じた「無責任領域」▲必要な批判まで抑制する「翼賛政治」では真の復興にはつながらない。(田)

# ユニオンセミナー

## 九十二名が参加で情勢を学ぶ



今回のユニオンセミナーは、「労働組合と雇用政策」がテーマ。これまで県労連として雇用問題の要求をまとめ、県や労働局と話し合いをしてきました。また、労働相談センターを中心とした相談活動、生活問題を含む「あつたか村相談会」の活動などを行ってきました。

三月二十五日の「NPOと仕事おこし」を最終回に、二〇一一年春・ユニオンセミナーが終了しました。セミナーへの参加者は合計九十二名にのぼり、参加者は県内の雇用行政や地域経済、簿記やNPOについて学び、県労連として雇用問題にもう一步踏み込む手がかりを掴みました。

今回は、県労連としてももう一步踏み込んだ雇用問題での取り組みが出来ないかということ、仕事作り、NPOを通じた活動についても学び、研究しました。講師にも、労働局雇用対策課や高知大学人文学部准教授、高知工科大学准教授、高知県ボランティア・NPOセンターなど、様々な分野のスペシャリストを迎えました。

第四回の講座は青年部が担当し、三十二名が参加し、賃金論と模擬団交を行いました。



た。賃金論の講師は県労連田口書記長が務めました。賃金の成り立ちや、搾取の仕組みなどを学ぶと共に、富の再分配など、労働者が人として生活していける賃金とはどういうものなのかを学びました。

その後、民間と自治体の2つのチームに分かれ、経営者側や行政側（県労連役員）と賃上げ、賃下げ撤回の模擬団交を行いました。経営者側の鋭い返答に、次第に労働者側も熱を帯び、本番さながらの白熱したものとなりました。

## 労働相談ホットライン 情勢反映し相談相次ぐ

全国一斉・解雇・雇止め労働相談ホットラインを、三月四日に行いました。県労連・労働相談センターの相談員が対応しました。

県労連の事務所には、開始の十時前から相談の電話が、入ってきました。激安美容室で働いている労働者から、数十項目のチエックリストがあり減給され、時給が最低賃金を下回っている、というものでした。

その後も病気休職中に解雇通告を受けたなど、様々な相談が寄せられました。NHK、RKCテレビなどが、取材に訪れ、関心の高さが



うかがわれました。この日、ホットラインに寄せられた相談は、最終で二十件となりました。

日頃の相談件数も増えていますが、ホットラインを通じて、さらに相談センターの認知度の高まりを感じるものとなりました。

### 『あつたか村・何でも相談会』開催

日時 四月二十九日(日) 十一時～十五時  
場所 グリーンロード帯屋町パラソル前

大震災による雇用への影響も懸念されます。雇用・労働・生活・税・法律などの相談を受け付けます。今回は東日本大震災の支援募金の呼びかけや、地震などの災害に対する防災ブースも設置します。

# 建交労農林支部四万十監督署に要請

四月五日、建交労農林支部は、四万十労働基準監督署へ、労組員の労災認定を迅速決定することなど求めて申し入れを行いました。

前段の集会には、建交労農林支部を中心に九〇名以上が参加し、労災申請から一年以上経過している労働者の早期認定を求めました。

主催者挨拶では、建交労農本部の武田委員長が、「この事態を許せば、次の人にも続いてしまう。次の人のためにも頑張ろう」と挨拶しました。その後、今回の中心となつている、労組員の古味さんが決意を述べると、会場からは、拍手と「がんばれー」という声援に包まれました。



監督署前でシュプレヒコール

次に山本書記長が、基調報告を行い、この申し入れに至る経緯などを参加者に説明しました。

集会后に、四万十監督署前でシュプレヒコールを行い、同署への申し入れに臨みました。その間、宣伝カーで四万十市内を街宣しました。



## ワールドピースナウ

3月24日、「World Peace Now “3・20” 武力で平和はつくれない高知県民集会」が開かれました。東日本大震災を受け、今年は震災復興・原発反対のテーマが加わりました。

## 郵産労非正規ホットライン



県労連と郵産労は、3月24日「郵政非正規社員雇い止めホットライン」を行いました。10時から20時まで県労連で電話相談に応じ、複数回契約を更新してきた労働者が突然契約の打ち切りで相談に。組合に加入し闘いを始めました。

## 東日本大地震をうけて考える



3月30日、震災を考える会が主催し、「東日本大地震をうけて考える」の学習会を行いました。高校地学の教員でもある高教組谷内書記長を講師に、地震のメカニズムや南海大地震の予想被害、対策を学習しました。

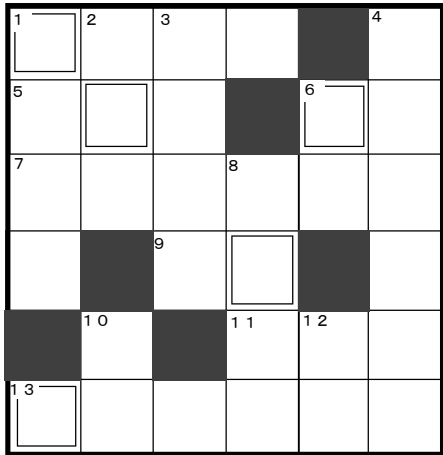
## 香美労連交流会



3月29日、香美労連交流会を開催しました。11名が参加し、職場や組合について交流を行いました。今後も香美労連発足準備会に向け、交流を図っていく予定です。

# 樞やん奮戦記⑭

三月は、春の全国一斉労働相談ホットラインを含め五十五人うち女性三十人、男性二十五人から、相談が寄せられました。年齢は、二十代二人、三十代九人、四十代六人、五十代二人、六十代四人、不明三十二人。雇用形態は、正規十二人、パート契約・アルバイト十二人、臨時四人、派遣四人、不明二十三人。相談内容は、解雇・雇止め十人、退職強要二人、賃金不払い・残業十人、労働条件切り下げ二人、労働時間・休暇五人、パワハラ一人、医療二人、労災四人、雇用契約一人、派遣問題二人、配置転換一人、その他一人。組合加入は四人でした。昨年十月労働相談センター総会後からの累計は、相談者数二〇七人、組合加入数二十二人です。許せない雇止め事例の紹介。高知県の指定管理施設で働く女性二人が、次年度の雇用契約（有）と約束されていたにもかかわらず、今年三月末で雇止めされました。同施設では県庁の天下り職員（事務局長）が異常なまでに権限を誇示する中で二人の女性に対し、恣意的に自作自演の「雇用契約終了」の理由をつけ雇止めをしてきました。同財団の言う二人に対する雇止め理由は「仕事より私事を優先し、業務の遂行に非協力的であることが認められたこと。」としています。今回、雇止めされた女性の一人は母子家庭。今年一月、前もって小学生の子どもの四月の入学式に出席するためにと、勤務日の振り替えを申し出たところ、これが財団は仕事より私事を優先することになると。もう一人の女性についても他の職員より休日を多く希望してくるからと、雇止めの理由にしています。子どもの入学式への出席は誰もが共通する親心。社会通念からしてもあたり前のはず。また、もうひとりの女性の休暇届けについても他の職員の届出数とほとんど変わらず、しかも財団は休暇を認めておらず何ら業務の遂行に支障はきたしていません。公務・公共業務の委託をまかされている財団が事実をゆがめ身勝手な理由をつけ問答無用に労働者を切り捨てるなど断じて許されるはずはありません。二人の女性は高知一般労組に加入し、不当な雇止め撤回・継続雇用を求めるたたかいを気丈に進めています。みんなですべての面で支援をしていきましょう。



**クロスワードパズル**  
 カギを解き、二重ワクに入る文字を並べ替えてできる言葉は何？  
 「タテのキー」①内縁関係

**【ヨコのキー】**

①月下氷人 ⑤戦う ⑨とうがんは地へ送った — 〇〇の仲間 ⑩お一袋 ⑥高級。〇 さなご ⑬哨戒、探〇レベル ⑦教科 知などの軍務のため訓練された犬書を理解するために — を買

にある妻 ②相談役。 — 弁護士 ③列車の — 表 ④西洋諸国の人 ⑥両国間の〇〇渡し ⑧降水量とほぼ同義 ⑩〇〇が峰に立つ ⑫〇〇を狙う。上司の〇〇がいい

**クロスワードパズル**  
**図書券プレゼント**  
**チャレンジ**  
**《応募方法》**  
 クロスワードの答えと、機関紙の感想、組合名、郵便番号、住所、氏名、年齢を記入の上、県労連書記局宛にお送り下さい。  
 抽選で三名様に図書カードをプレゼントします。(ハガキ、FAX、eメール)締め切りは翌月の二十日になります。

**当選者の発表!**  
 127号・クロスワードパズルの答えは「ホリゴタツ」でした。当選者が抽選で決定しました。おめでとうございます。当選を逃した方もドンドン挑戦してください。  
**《当選者》**  
 尾崎 淳さん (年金者組合)  
 中山 裕康さん (県教組)

**交通災害共済**  
 もしもの事故に強い味方!  
 ●月500円で死亡時1,000万円 入院日額15,000円の保障  
 ●年齢に関係なく加入できる!  
 全労連共済 お申し込み・お問い合わせは各共済会へ

**出会い応援企画**  
**「I・出会い博」開催決定!**  
 県労連青年部や、その他の青年団体に組織される青字連が、第二回「I・出会い博」実行委員会を結成しました。前回は男女三十名で、出会いをメインに交流を深めました。今回は六月五日(日)の開催を目指して計画中。詳しい内容についてはチラシでお知らせします。

**メイデー前夜祭 映画上映会!**  
 長編ドキュメンタリー 『明日へ紡ぎつづけて』  
 ・四月二十九日(金)  
 ・高知市立自由民権記念館  
 ・前売り券一〇〇〇円(当日一三〇〇円)  
 ①10:00~11:34  
 ②12:00~13:34  
 ③14:00~15:34  
 ④16:00~17:34  
 ⑤18:00~19:34

**HPがリニューアル**  
 県労連のホームページをリニューアルします。各コーナーなども見やすくなり、署名のダウンロードもできるようにします。ぜひご覧下さい。

携帯からの相談もフリーダイヤルで無料です。お気軽にご覧ください。

**HPがリニューアル**  
 県労連のホームページをリニューアルします。各コーナーなども見やすくなり、署名のダウンロードもできるようにします。ぜひご覧下さい。

**時事川柳**  
 人体に安全といひ避難指示  
 (唐平)  
 この空につづく戦のない世界  
 (幸泉)  
 ボランティア天災の野を駆け巡る  
 (源朝光)  
 安全を言うその口に舌二枚  
 (源朝光)  
**被災地応援メッセージ**  
**メイデー川柳を募集集中**

**こうち労働相談センター**  
**電話受付時間延長のお知らせ**  
 3月19日(土)より  
 平日(平日9時~18時)にくわえ  
 土曜・日曜も10時~16時に  
 電話相談を受け付けます  
**フリーダイヤル**  
**0120-378-060**